

「2016県展」の審査結果及び入選作品展について

県展は、兵庫県の芸術文化の振興に資することを目的に、県内に生活し、日頃から美術作品の制作活動に励んでいる方を対象とした公募展です。1962年（昭和37年）から毎年開催され、今回で54回を迎えました。

今年は、絵画、彫刻・立体、工芸、書、写真、デザインの6部門で募集し、合計582点の応募がありました。厳正な審査の結果、入選作品153点、そのうち「県展大賞」などの入賞作品42点が別添資料のとおり決定しました。

については、入選作品展（計153点）を下記のとおり開催します。

記

1 主催

兵庫県、兵庫県立美術館、神戸新聞、公益財団法人兵庫県芸術文化協会

2 会期等

(1) 会 期：8月6日(土)～8月21日(日)

(2) 休 館 日：月曜日(8月8日、8月15日)

(3) 開館時間：午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)

最終日の8月21日(日)は午後2時で閉展(入場は午後1時30分まで)

3 会場

兵庫県立美術館 ギャラリー棟3階

(神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 Tel:078-262-0908)

4 観覧料

無料

5 添付資料

(1) 2016県展 審査結果について

(2) 2016県展 入選者・作品名リスト

(3) 2016県展 講評

(4) 2016県展 大賞等受賞作品 図版

2016県展 審査結果について

兵庫県立美術館

1 応募状況等一覧

(1) 応募及び入選作品数一覧

部門	応募点数				入選点数		左のうち入賞点数						
	本年度 応募点数	昨年比 増減数	昨年比%	本年出品 全体に 占める 割合(%)	本年度	%	特席	一席	二席	三席	四席	佳作	奨励賞
絵画	220	32	117.0%	37.8	57	25.9	1	1	1	1	1	3	1
彫刻・立体	23	9	164.3%	4.0	6	26.1	0	1	1	1	1	1	1
工芸	35	2	94.6%	6.0	10	28.6	0	1	1	1	1	3	1
書	74	12	119.4%	12.7	20	27.0	0	1	1	1	1	3	1
写真	212	3	101.4%	36.4	54	25.5	0	1	1	1	1	3	1
デザイン	18	6	75.0%	3.1	6	33.3	0	0	1	1	1	0	1
計	582	48	109.0%	100	153	26.3%	1	5	6	6	6	13	6

昨年603点

特席 県展大賞 副賞50万円
 一席 部門大賞(知事賞) 副賞10万円
 二席 兵庫県立美術館賞 副賞7万円
 三席 神戸新聞社賞 副賞記念品
 四席 (財)兵庫県芸術文化協会賞 副賞記念品
 佳作
 奨励賞 (公財)伊藤文化財団賞 副賞5万円及び記念品
 特別賞 県民賞(来場者の投票による) 副賞記念品

特席(県展大賞)及び特別賞(県民賞)は全部門を通じて各1名、奨励賞((公財)伊藤文化財団賞)は各部門1名
 県展大賞の副賞50万円については、部門大賞の10万円を含む

(2) 年齢・男女別応募者数一覧

部門	10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明		計	
	2016年	2015年比	2016年	2015年比	2016年	2015年比	2016年	2015年比	2016年	2015年比	2016年	2015年比	2016年	2015年比	2016年	2015年比
絵画	7(5)	0(-2)	12(10)	0(0)	7(2)	-3(-1)	14(8)	3(1)	30(19)	10(4)	150(65)	22(12)	0(0)	0(0)	220(109)	32(14)
彫刻・立体	2(2)	2(2)	3(2)	1(1)	2(1)	2(1)	4(2)	3(2)	1(0)	0(0)	11(3)	1(2)	0(0)	0(0)	23(10)	9(8)
工芸	1(0)	1(0)	3(3)	-1(-1)	3(1)	0(0)	6(3)	1(0)	0(0)	-1(0)	22(12)	-2(6)	0(0)	0(0)	35(19)	-2(5)
書	1(1)	1(1)	3(3)	0(1)	8(6)	4(3)	7(7)	-2(-2)	19(19)	3(3)	36(34)	6(8)	0(0)	0(0)	74(70)	12(14)
写真	0(0)	-1(-1)	3(2)	1(2)	1(0)	-1(-2)	4(0)	-3(-1)	10(3)	-2(-1)	194(63)	9(7)	0(0)	0(0)	212(68)	3(4)
デザイン	1(1)	-5(-5)	1(0)	0(-1)	5(4)	2(4)	1(0)	-2(-2)	0(0)	-1(0)	10(0)	0(-1)	0(0)	0(0)	18(5)	-6(-5)
計	12(9)	-2(-5)	25(20)	1(2)	26(14)	4(5)	36(20)	0(-2)	60(41)	9(6)	423(177)	36(34)	0(0)	0(0)	582(281)	48(40)
%	2.1(1.5)		4.3(3.4)		4.5(2.4)		6.2(3.4)		10.3(7)		72.7(30.4)		0(0)		100(48.3)	

()内は女性の内数

(3) 受付日別出品人数

	1日目	2日目	合計
一般	297	260	557
学生	8	17	25
計	305	277	582

(4) 地域別応募者数一覧

部門	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	その他	計
絵画	94	31	25	22	10	20	7	3	1	3	4	220
彫刻・立体	12	3	2	2	1	0	1	1	1	0	0	23
工芸	10	8	1	6	1	2	2	1	2	0	2	35
書	19	6	1	11	8	17	9	1	0	1	1	74
写真	91	28	15	15	29	10	9	1	12	2	0	212
デザイン	6	4	2	2	0	3	0	0	0	1	0	18
計	232	80	46	58	49	52	28	7	16	7	7	582
%	39.9	13.7	7.9	10	8.4	8.9	4.8	1.2	2.7	1.2	1.2	100

2 審査の概要

6部門、582点の応募があり、入選作品は153点。(詳細は、上記の「1 応募状況等の一覧」を参照)

特席(県展大賞)は、絵画部門、清瀬真一氏の(a green window)に決定。(受賞作品は、別添3を参照)

なお、各部門の入選者は、別添資料1の入選者リストのとおり。

3 特徴

応募者は、6部門全体で昨年度に比べて1割弱増加した。例年の会場である「原田の森ギャラリー」が休館中のため、会場が兵庫県立美術館ギャラリーとなったことも若干影響していると思われる。

部門ごとの応募数は、工芸、デザイン部門が昨年度に比べ減少、他部門は増加し、特に彫刻部門は昨年度に比べ約6割増加した。

別添2の審査員の講評中の総評にあるように、レベルは総じて高いとの評価を得た。デザイン部門に関してはデザインというジャンルの認識にやや偏りがあり、1席は該当なしとなった。

展示面積の都合により入選作品数を昨年度より絞り込むかたちとなったため、入選率が下がり厳しい選考となった。

昨年度より設けられた40歳未満の出品者を対象とする奨励賞「(公財)伊藤文化財団賞」については6部門すべてに受賞者が出た。今後も若手の出品が期待される。

2016県展受賞者一覧表

【一席 部門大賞(知事賞)】

部門	No.	タイトル	ふりがな	氏名	ふりがな	性別	年齢
絵画	絵—43	a green window	ア グリーン ウィンドウ	清瀬真一	きよせ しんいち	男	30
彫刻・立体	彫・立—3	I was here	アイ ワズ ヒア	竹中大悟	たけなか だいご	男	24
工芸	工—7	生かされる	イカサレル	宮城有加	みやぎ ゆか	女	22
書	書—3	ゆらぎ	ユラギ	萩原文	はぎわら あや	女	62
写真	写—41	標本	ヒョウホン	羽根田幸男	はねだ ゆきお	男	64
小計							5

※県展大賞

【二席 兵庫県立美術館賞】

部門	No.	タイトル	ふりがな	氏名	ふりがな	性別	年齢
絵画	絵—36	囚ワレタ向日葵ノ図	トラワレタヒマワリノズ	田中達也	たなか たつや	男	32
彫刻・立体	彫・立—5	herve O1	ハーベスト ゼロイチ	三輪裕治	みわ ゆうじ	男	37
工芸	工—8	誘う珊瑚礁	イザナウサンゴシヨウ	大西真由美	おおにし まゆみ	女	64
書	書—7	あひみての	アヒミテノ	斎藤光楸	さいとう こうしゅう	女	54
写真	写—45	夢空間	ユメクウカン	塩津節子	しおつ せつこ	女	73
デザイン	デ—6	間奏曲	カンソウキョク	三木一代	みき かずよ	女	33
小計							6

【三席 神戸新聞社賞】

部門	No.	タイトル	ふりがな	氏名	ふりがな	性別	年齢
絵画	絵—26	樹のある風景 2016	キノアルフウケイ ニゼロイチロク	清水 侃	しみず あきら	男	79
彫刻・立体	彫・立—1	瀬戸内風の夷曲	セトウチカゼノヒナブリ	藤本尚隆※	ふじもと なおたか	男	62
工芸	工—9	精霊	セイレイ	早川千津子	はやかわ ちづこ	女	62
書	書—11	元好問詩	ゲンコウモンシ	松山悠翠	まつやま ゆうすい	女	33
写真	写—50	変貌	ヘンボウ	須崎哲哉	すぎき てつや	男	69
デザイン	デ—4	ゆらびた stool	ユラピタ スツール	杉本健太	すぎもと けんた	男	22
小計							6

※隆は生の上に一

【四席 公益財団法人兵庫県芸術文化協会賞】

部門	No.	タイトル	ふりがな	氏名	ふりがな	性別	年齢
絵画	絵—11	季節の送り状	トキノオクリシヨウ	松井幸子	まつい さちこ	女	70
彫刻・立体	彫・立—6	南極難民	ナンキョクナンミン	秦榮一郎	はた えいいちろう	男	63
工芸	工—5	宙吹切子皿「輪宝・太陽」	チュウフキキリコザラ「リンポウ・タイヨウ」	石田 慎	いしだ まこと	男	30
書	書—17	白居易詩	ハッキョイシ	松岡彩風	まつおか さいふう	女	56
写真	写—14	虹色のラッピング	ニジイロラッピング	小林恭子	こばやし きょうこ	女	67
デザイン	デ—1	グラデーション	グラデーション	石川重工	いしかわ じゅうこう	男	63
小計							6

【佳作】

部門	No.	タイトル	ふりがな	氏名	ふりがな	性別	年齢
絵画	絵—17	うつろう	ウツロウ	久保直美	くぼ なおみ	女	65
絵画	絵—29	秋色のアルザス	アキイロノアルザス	池田瑞子	いけだ たまこ	女	73
絵画	絵—47	自然への回帰	シゼンヘノカイキ	岡野壮男	おかの ますお	男	78
彫刻・立体	彫—57	KIRA	キラ	吉良幸弘	きら ゆきひろ	男	62
工芸	工—1	うつろい	ウツロイ	石田和江	いしだ かずえ	女	68
工芸	工—2	きのこのダンス	キノコダンス	隆 宗寛	たかし むねひろ	男	72
工芸	工—6	漂泊の思ひ	ヒョウハクノオモイ	高谷敏正	たかたに としまさ	男	64
書	書—9	陳輔詩	チンホノシ	西村聡望	にしむら そうぼう	女	28
書	書—16	春雨	ハルサメ	一井晶恵	いちい あきえ	女	25
書	書—19	一笑一若	イツショウイチジャク	石川かおる	いしかわ かおる	女	70
写真	写—10	White impression	ホワイト インプレッション	松田正康	まつだ まさやす	男	69
写真	写—24	壊れた冬空	コワレタフユゾラ	栗木芳隆	くりき よしたか	男	82
写真	写—34	試金石	シキンセキ	堀畑静子	ほりはた しずこ	女	65
小計							13

【奨励賞 公益財団法人伊藤文化財団賞】

部門	No.	タイトル	ふりがな	氏名	ふりがな	性別	年齢
絵画	絵—55	樹霊	コダマ	川口麻里亜	かわぐち まりあ	女	20
彫刻・立体	彫・立—4	やさしい大人	ヤサシイオトナ	今井杏奈	いまい あんな	女	25
工芸	工—10	折りかえしⅡ	オリカエシ2	福田笑子	ふくだ しょうこ	女	39
書	書—18	黄閨詩	コウジュンシ	谷川玄龍	たにがわ げんりゅう	男	33
写真	写—36	鹿を追う者は山を見ず	シカヲオウモノハヤマヲミズ	村松うらら	むらまつ うらら	女	25
デザイン	デ—5	コヨーテと羊飼いのインディアン	コヨーテトヒツジカイノインディアン	松田千紘	まつだ ちひろ	女	36
小計							6

合計 42

賞	題名	氏名	居住地
特席 県展大賞 一席 部門大賞(知事賞)	a green window	清瀬真一	たつの市
二席 兵庫県立美術館賞	囚ワレタ向日葵ノ図	田中達也	尼崎市
三席 神戸新聞社賞	樹のある風景 2016	清水 侃	姫路市
四席 公益財団法人兵庫県芸術文化協会賞	季節の送り状	松井幸子	神戸市西区
佳作	うつろう	久保直美	西宮市
佳作	秋色のアルザス	池田瑞子	神戸市灘区
佳作	自然への回帰	岡野壮男	高砂市
奨励賞 公益財団法人伊藤文化財団賞	樹霊	川口麻里亜	神戸市東灘区
	冬の蝶とホームレス	川北俊治	神戸市中央区
	樹氷(金剛山)	足立きみ子	神戸市灘区
	Landing	浅田祐加	神戸市西区
	記憶の扉	岡山英二	宝塚市
	夏の香り	田中明美	洲本市
	海峡を睨む二つの目(螺旋階段)	三方斌彦	加古川市
	豊岡・青龍洞	永谷壽啓	神戸市北区
	con·ten·po·rar·y I ~走れ! 風神丸	森山麗子	西宮市
	清秋	佐藤二美	伊丹市
	白日	粟山博子	姫路市
	想—花ひらく日に	三宅礼子	加古川市
	Healing(癒し)	野崎美佐代	神戸市須磨区
	Santorini	藤本隆正	西脇市
	去年の冬に	山田光子	伊丹市
	赫赫	五十嵐佳容	芦屋市
	秋光	中根真知子	たつの市
	イラワジ河 黄域	池田達彦	豊岡市
	晩夏	藤原田鶴子	西脇市
	遺跡想	杉江詰子	姫路市
	わたしの画室	金川郁子	加古川市
	郡	内海ひさや	姫路市
	雀の楽園	梅崎秀夫	神戸市西区
	緑韻	白川賢司	神戸市北区
	未来	石川公雄	加古川市
	厨房	千崎勝廣	赤穂市
	あるがままに	山田恵美子	神戸市北区
	大樹	坪井英樹	西宮市
	複合細工	堀 敏文	姫路市
	午睡	井上浩一	猪名川町
	樹と光が紡ぐ刻	住田正彦	西宮市
	街作り	山本文昭	猪名川町
	ギリシャの街角—人を想う—	宮崎幸子	多可町
	Refrain	片桐明子	芦屋市
	もう、待たないから。	大田真里奈	明石市
	想	浅沼正子	姫路市
	crown	高橋宜子	芦屋市
	涼	徳蘭聖英	神戸市兵庫区
	RED MOON 8 4/7	井原正夫	西脇市
	絵のあった場所	浅川さちえ	神戸市東灘区
	ゆるぐる—	今井杏奈	神戸市西区
	雨止む	渡部 徹	西宮市
	在る	祐保明美	佐用町
	ちいさな森のオーケストラ	坪内智恵美	佐用町
	68-1	寺田 明	宝塚市
	シンフォニー・イン・神戸No.2	高倉正和	神戸市東灘区
	町	鹿島 彩	神戸市東灘区
	水のかたち	奥村 誠	西宮市
	太古への想い	川東雅子	西宮市
	春望	藤本 淑	姫路市

※祐のネは示
 ※赫赫は赤4つで一文字扱い
 ※詰の士は土
 ※徳は心の上に一
 ※8 4/7は通常の帯分数表記。整数と分数の間は開けない

彫刻・立体部門(応募点数 23 入選点数 6)

賞	題名	氏名	住所
一席 部門大賞(知事賞)	I was here	竹中大悟	神戸市垂水区
二席 兵庫県立美術館賞	hervest 01	三輪裕治	揖保郡太子町
三席 神戸新聞社賞	瀬戸内風の夷曲	藤本尚隆	西脇市
四席 公益財団法人兵庫県芸術文化協会賞	南極難民	秦栄一郎	豊岡市
佳作	KIRA	吉良幸弘	丹波市
奨励賞 公益財団法人伊藤文化財団賞	やさしい大人	今井杏奈	神戸市西区

※隆は生の上に一

工芸部門(応募点数 35 入選点数 10)

賞	題名	氏名	住所
一席 部門大賞(知事賞)	生かされる	宮城有加	尼崎市
二席 兵庫県立美術館賞	誘う珊瑚礁	大西真由美	西宮市
三席 神戸新聞社賞	精霊	早川千津子	神戸市須磨区
四席 公益財団法人兵庫県芸術文化協会賞	宙吹切子皿「輪宝・太陽」	石田 慎	丹波市
佳作	うつろい	石田和江	西宮市
佳作	きのこのダンス	隆 宗寛	神戸市須磨区
佳作	漂泊の思ひ	高谷敏正	加古川市
奨励賞 公益財団法人伊藤文化財団賞	折りかえしⅡ	福田笑子	姫路市
	風を纏う	奥野多佳子	大阪府豊中市
	MOON I	高垣裕子	新温泉町

書部門(応募点数 74 入選点数 20)

賞	題名	氏名	住所
一席 部門大賞(知事賞)	ゆらぎ	萩原 文	神戸市東灘区
二席 兵庫県立美術館賞	あひみでの	斎藤光楸	芦屋市
三席 神戸新聞社賞	元好問詩	松山悠翠	神戸市中央区
四席 公益財団法人兵庫県芸術文化協会賞	白居易詩	松岡彩風	三木市
佳作	陳輔詩	西村聡望	高砂市
佳作	春雨	一井晶恵	姫路市
佳作	一笑一若	石川かおる	神戸市北区
奨励賞 公益財団法人伊藤文化財団賞	黄閨詩	谷川玄龍	豊岡市
	輝	新井美炎	西宮市
	翔	衣川祐華	神戸市垂水区
	白珽詩	井口玉泉	姫路市
	湖上避暑	青野彩水	姫路市
	枕草子	谷口千翔	神戸市長田区
	百人一首より	水谷朱喜	西宮市
	杭州春望	科野至風	明石市
	雑感其一	上田蘭秀	姫路市
	八月十五日夜	篠倉緋楽	加西市
	蘇軾詩	龍田知香	大阪府大阪市
	白露	菅野博子	姫路市
	一瞬	中島政子	神戸市北区

写真部門(応募点数 212 入選点数 54)

賞	題名	氏名	住所
一席 部門大賞(知事賞)	標本	羽根田幸男	神戸市垂水区
二席 兵庫県立美術館賞	夢空間	塩津節子	西宮市
三席 神戸新聞社賞	変貌	須崎哲哉	加古川市
四席 公益財団法人兵庫県芸術文化協会賞	虹色のラッピング	小林恭子	神戸市東灘区
佳作	White impression	松田正康	神戸市北区
佳作	壊れた冬空	栗木芳隆	神戸市灘区
佳作	試金石	堀畑静子	神戸市北区
奨励賞 公益財団法人伊藤文化財団賞	鹿を追う者は山を見ず	村松うらら	神戸市中央区
	港街慕情	早川麗子	神戸市垂水区
	叫び	川辺富子	稲美町
	天空の釣り人	杉本伸英	加東市
	至福のとき	香山 勇	明石市
	ブルー	上紺屋憲彦	神戸市北区
	神々の宿る島	竹内晴行	西脇市
	家路	吉田清子	神戸市西区
	追憶	南 澄恵	神戸市灘区
	昭和の記憶	有光重文	三田市
	宙	大槻さかゑ	丹波市
	時空の防人	八木義明	三木市
	群れる	阿部勇夫	神戸市東灘区
	規律	糸田尚子	三木市
	森の水景	大鳥裕士	神戸市東灘区
	歴史ある村	岡本美知子	三木市
	夕照	山口政宏	明石市
	夕映え	高橋喜久雄	神戸市北区
	アートストリート	山本昌彦	神戸市兵庫区
	水面にえがく	津川宣子	神戸市灘区
	眼力	重永良子	芦屋市
	菜園の収穫	西川光子	神戸市兵庫区
	白昼夢	川端昭延	三木市
	chaos	越智信男	伊丹市
	吸引	阿部裕子	神戸市東灘区
	un deux trois	河津勇三	たつの市
	顔	田中 宏	相生市
	スラム一隅	金井和子	神戸市中央区
	ドミニカの伊達男	福田晴之	神戸市垂水区
	神戸港	藤原雅弘	神戸市北区
	迷い道	門 光廣	赤穂市
	回廊	粟井義信	赤穂市
	窓辺の魔界	粟飯原誠一	尼崎市
	山頂広場	南出奈津江	神戸市北区
	晩夏・何もない尾瀬	谷登志朗	姫路市
	眼光	薬師正興	西宮市
	なんや?明日雨かいな!	中西宏明	西宮市
	早朝練習	貴島 裕	神戸市東灘区
	裏街叙情	尾崎 寿	市川町
	山里の初夏	足立 功	丹波市
	漁港	大國由紀子	明石市
	付着貝	遠藤堅衛	神戸市須磨区
	真夜中のダンシング	山口政子	たつの市
	Second Winter	長谷川尚人	姫路市
	萱葺き転人	新宅郁夫	丹波市
	回顧	蔭山日出子	三木市
	あーしんど	漁 正和	三木市

※吉の士は土

デザイン部門(応募点数 18 入選点数 6)

賞	題名	氏名	住所
一席 部門大賞(知事賞)	該当なし		
二席 兵庫県立美術館賞	間奏曲	三木一代	姫路市
三席 神戸新聞社賞	ゆらびた stool	杉本健太	神戸市東灘区
四席 公益財団法人兵庫県芸術文化協会賞	グラデーション	石川重工	高砂市
奨励賞 公益財団法人伊藤文化財団賞	コヨーテと羊飼いのインディアン	松田千紘	西宮市
	2020年版木版画カレンダー	堀内省吾	姫路市
	ZE・BRA・ZIL リオデジャネ色	亀井啓二	神戸市灘区

2016 県展 講評

1 絵画部門

【総評】

高齢者の作品には歴史をふまえた力強さがあり、入選数も多くパワーを感じた。若い世代の作品には発想の斬新さがある。技術が高く、感性が生き生きしている作品が多い。「絵画」という大きなくくりの中で様々な傾向があつてスタイルも幅広いが、特に具象的な作品の追究を感じた。今後への希望：絵の具そのものが生命力を持つような作品を期待する。今年は細かい描写をした作品が多数入選したが、もっと大きな画面でおおらかな表現ができるものがあつても良いのでは。県展はバラエティに富む面白さがあるので、自分の追究するものを画面の上で成り立たせる素材の使い方や構成を進めてほしい。

【県展大賞、部門大賞・知事賞】《a green window》

絵の具の層はさほど重ねてないにも関わらず、遠くから見た構成・奥行き感を作り込まれていて断トツに空間性がある。素材の持ち味を生かしているが、ただ額がもったいない。色調が良く混色もさまざまで豊か。一見スーパーリアリズム的だが、それ以上に自然を掴んでいて、良い意味で気味の悪い空間が広がっている。不気味さがうまれていて魅力的。視線が奥に吸い込まれるも手前の描写に引き戻され、自然と視線が動く。

【兵庫県立美術館賞】《囚ワレタ向日葵ノ図》

ルーヴル美術館蔵のアンゼラム・キーファー作品を彷彿とさせる。オーソドックスなテーマを使いつつも現代的な解釈がなされている。惜しいのは空間表現で、もう少し細部描写で魅せることもできた。自分のひらめきと現代性をうまく組み合わせた秀作。行き場のない閉塞感、場所のストーリーをぎゅっと詰め込んでいて、今の世の中を強く感じさせる。壁龕のような表現の中に、生命の終わりを象徴するようなものがうまく出ている。

【神戸新聞社賞】《樹のある風景 2016》

落ち着いて静かな画面の中に、ゆるぎない生命力と圧倒的な強さを具えており、牛島憲之の流れを汲む伝統的な技法が使われている。この大きさとガツンと生命力を出している点は若い世代も見習うべき。幹をスパッと切っている水平感は、地平線の広がりや木の上部の立体感との組み合わせを配慮しても良いのかもしれない。あえて木の位置を左にずらすことでバランスの悪さを出していて、空間が絶妙に気持ち悪くなる。

【芸術文化協会賞】《季節の送り状》

背景の金箔とドライフラワーとの対照が、生と死の組み合わせをうまく表している。背景がもう少し熟考されていたら良かったが力作だし、説得力がある。乾いた葉の質感を深く追求していて絵としての魅力につながっている。日本画の素材に長けており、構図がうまく、植物の配し方や背景の流れる感じが良い。巧みにマチエールが作られている。

2 彫刻・立体部門

【総 評】

木彫から石彫まで、多岐にわたっている。具象も抽象も、自分なりのテーマを設定して、素材を駆使しており、バラエティに富む。県展の応募者はプロを目指す方から趣味として楽しむ方まで幅広く、制作姿勢が意欲的であるものを選んだ。物足りない部分もあり、もっと元気でもよいのではと思う。

来年応募される方へ：昔は量感、空間、動静といった彫刻の要素で勝負しようとしていたが、彫刻という分野、既成のものから離れようとする新しい試みがみられる。規則的にだめなものはない世界であり、自由に、どんどん挑戦すればよいと思う。存在感、緊張感など、押さえるべきところは押さえ、思いつきに終わらないようにしてほしい。

【部門大賞・知事賞】 《I was here》

純粹で素朴、実直。真っ向から木という素材に向き合おうとする姿勢が表れている。もっと細かいところまで、いろいろなことをしたくなるが、ちょうど良いところで止まっている。タイトルからして自刻像だろう。断定的でなく、作品を見る側が考えられる余地を残している。オーソドックスな彫刻を作る人は減っているが、作者はそれに挑んでいる。

【兵庫県立美術館賞】 《hervest 01》

即物的な優しさと、血管のようなグロテスクさを兼ね備え、素材感とカタチが奇妙な雰囲気をかもし出す。素材として紙を用いているが、手芸的にはなっていない。先端にはそれぞれ異なるカタチ、動きが見られ、空間性や広がりがある。今後が楽しみである。

【神戸新聞社賞】 《瀬戸内風の夷曲》

軽さを表現しているのだろうか。動きそうなものが動かず、動かなさそうなものが動く。ぶら下がっている白いものが動いたほうがおもしろい。以前の作品からさらに展開しており、自分だけの表現、その人だとすぐに分かる作風が確立されつつある。

【兵庫県芸術文化協会賞】 《南極難民》

手法としては流木を削る、磨く、色をつけるという作業をしており、自然のものを活用した作品。カタチから何かをイメージできるのが彫刻の要素。見る者の想像力が高められ、作品と対話できるのが楽しい。内部が抜けていて、軽いのもよい。

3 工芸部門

【総 評】

昨年より応募点数は少なかったということだが、全体的なレベルは高い。地道な努力の痕跡が作品に現れ、伝統工芸の技術を踏まえつつ、既成概念にとらわれない新鮮で自由な表現を広げようとする意図が感じられた。

【部門大賞・知事賞】《生かされる》

土の巻き締めによる素焼きのオブジェ。素材と格闘しながら有機的なフォルムを生み出している。従来の型にはまることのない自由な創作によるもので、もはや工芸なのか立体オブジェなのか、ジャンル分けそのものを超越していく将来性を秘めた作品。

【兵庫県立美術館賞】《誘う珊瑚礁》

ガラスによるオブジェ。ガラスという素材を型にはめ込む仕方ではなく、溶けたガラスによって自らの求めるフォルムを導き出す自由さが感じられる。装飾とおおらかな造形感覚が調和し、透明感や色彩感も良い。

【神戸新聞社賞】《精霊》

絞り染め。大きな絞りの左右を断ち切り、花火や花を想起させるかのような優れた造形感覚を示している。伝統的な染めの技法に従いながら、その労苦や手垢感を思わせる端正な仕事を高く評価する。色彩感覚も良い。

【芸術文化協会賞】《宙吹切り皿「輪宝・太陽」》

カットグラス。やはり従来の切り子の技法を駆使しながら、その縁に太陽を思わせる自由な曲線処理を施すことで、伝統と一線を画した自由で現代的なフォルムが生み出されている。試行錯誤がうまく造形に生かされた作品。付属の台は蛇足。ない方がよほど良い。

4 書部門

【総評】

昨年より出品点数も増え、レベルも例年と比べて全体的に高い。師の作風をそのまま継承するのではなく、自己の世界を確立して出品している作品が多く見受けられる。良い傾向。あとは作品の顔ともいえる表具に、各出品者はいっそう気を配ってほしい。

【部門大賞・知事賞】《ゆらぎ》

前衛。横画面の左から右へ、筆致が激しく動く一方、余白のバランスが絶妙に取れており、リズム感が目に心地よい。

【兵庫県立美術館賞】《あひみての》

かな。墨の濃淡やかすれの部分によって表現が全体に柔らかくなっている。表具の青色と墨の色とのバランスもうまく調和が取れている。線もしっかりと出ており、日々の勉強の成果が見られる。

【神戸新聞社賞】《元好問詩》

漢字。他の作品に比べて字が小振りであるが、線が力強く行間とのバランスが取れているので弱々しさを感じさせない。明清期の書をほうふつとさせる。

【芸術文化協会賞】《白居易詩》

太くはないが厳しい線が縦横無尽に行き交い、力強い躍動感にあふれている。重苦しさを感ぜせない。

5 写真部門

【総評】

全体的に新しさが感じられず、同じことの繰り返しが多かったのが残念だった。一定以上のレベルには達しているが、個性や作家性が感じられる作品が少なかった。スナップの写真が少なかったのも印象的であった。しかし、作家の意図や造形的な考え方が出やすい三点組の作品が多かったのはとてもよかった。フェイスブックやインスタグラムが流行するなかでクオリティの高い1点の写真を目にする機会が増えたが、こうした三点組みは「何を表現したいか」ということを示していた。写真によって何を表現したいかというのは人それぞれであるが、自分が為すべき表現にむかって突き進んでほしい。

【部門大賞・知事賞】《標本》

写真というのは「発見の美学」である。本作はこの「発見」の分母がとても多かったはずである。描写力も的確であり、あらゆる細部を映し出すことに成功しており、光の使い方も良い。また人間のトルソ、脚のように素材を選定し、切り取っているのがとても面白く、極めて完成度の高い作品である。

【兵庫県立美術館賞】《夢空間》

スナップ的な要素が強い作品である。偶然の助けを借りて、現実的でありながら非現実的な世界を写し出しているのが良い。子供たちは楽しんでいるようでもあるが、画面には不思議の国のアリスのような少し怖い印象もある。一方で、光が効果的に用いられ、また絵画性に満ちた構図が採られていることにより、まとまりのある画面になっている。

【神戸新聞社賞】《変貌》

三点の画面に選ばれたモチーフの組み合わせが良い。四角、丸、不定形といったかたちや、金属、ゴムといった物体が画面に写し出されている。日常では気づかないようなこれらの物体によって構築された画面は、我々に「時間」を意識させるとともに、何らかの隠されたメッセージさえも想起させるものとなっている。

【芸術文化協会賞】《虹色のラッピング》

「写真は真実を写さない」ということを明らかにするような作品である。カメラの技術、レンズ、窓ガラスの効果だけに頼っている作品ではなく、作家ならではの都市、空間の捉え方が表現されていて良い。一方で、時間や空間をすり抜けてしまうような独特の世界が写しだされている。

6 デザイン部門

【総評】

絵画ないしイラストレーショナルな作品が多く、機能をもったオブジェという意味でのデザイン作品、例えばテキスタイルやファッション、プロダクトの類のものが少なかった。デザイン都市をうたう神戸であるので、今後はデザインというジャンルに対する理解が浸透し、多様な作品の応募があることを期待したい。

【部門大賞・知事賞】該当なし

【兵庫県立美術館賞】《間奏曲》

画面の隅々まで神経の行き届いた作品。デザインというジャンルの作品として考えた場合に絵画としてみるかイラストレーションとしてみるかという点で不明瞭な部分があり、二席にとどめた。デザイン的な要素ないしイラストレーションとしてのオリジナリティがもっとあれば良かっただろう。

【神戸新聞社賞】《ゆらびた stool》

アイデアとしては既にありそうなものではあるが、唯一のプロダクトデザインということもあり、奨励の意味も込めて受賞作とした。目的と機能というコンセプトに対して的確な作品となっている。

【芸術文化協会賞】《グラデーション》

デザインとしてみるかコンセプチュアル・アートとしてみるかの判断が難しい作品であった。アクリルケースのデザインやフォントなどにこだわりを持ってもらおうとデザイン性はあっさり上がるだろう。問題の発見とその解決というのがデザインの本領であるが、本作は問題の発見を指し示している点で評価されるが、その解決を提示できなかった点は残念であった。

2016 県展 特席 県展大賞 受賞作品



清瀬 真一 《a green window》

2016 県展 一席 部門大賞（知事賞）受賞作品

絵画



清瀬 真一 《a green window》

彫刻・立体



竹中 大悟 《I was here》

工芸



宮城 有加 《生かされる》

写真



萩原 文 《ゆらぎ》

写真



羽根田 幸男 《標本》

デザイン部門は一席該当作品なし